

設立 平成24年 5月15日
開塾 平成24年 9月 8日
発行 平成28年 1月 9日
(41号)



[事務局] 〒648-0094
橋本市三石台4-1-15
TEL 0736-38-3669
FAX 0736-38-3680
文責 宮本眞弓

人間学講座
第43講

「地に足をつけて」

上甲 晃先生



■ 危機に強い生き方

東日本大震災後被災地に出向く中で、危機に強い生き方とは何か、どん底から這い上がるのはどういう人なのか…それにはひとつの共通性があることに気づかせていただきました。

まず第一は「志」です。志がある人は立ち直りが早い。例えばパン屋を仮定したとき二つのタイプがあります。一つは毎日美味しいパンを作り、地域の人たちに喜んでもらうことで役立ちたいと思ってる人、もう一つは自分の生活のためにパンを売っている人です。パンが生活の糧だという考えでやっている人は、補助金がある限りは、なかなかパン屋を再開しようとは思わないでしょう。しかし、人に喜ばれるためにパンを作っている人は、たとえ軒先であるが一刻も早くパン屋を再開したいと考えます。なぜなら、自分がパンを作らないと皆が困ると思えるからです。人の役に立とうと使命感を持っている人は立ち直りが早い。これこそが志です。自分の中に社会的な使命感をしっかりと持っている人は、危機に強いということです。

二番目は「絆」、絆のある人は立ち直りが早い。絆のある人は周りの皆から励ましてもらえます。しかし孤独な人はなかなか立ち上がりにくい。あの悲惨な被災地においても、「志」「絆」ネットワークを持っておれば立ち直ってゆくのが早いということ、これはこの先どんな時代がこようと「志」と「絆」があれば、安心して生きてゆけるということだと思っています。

■ 志の三条件

私は松下政経塾で十四年間政治家を育てる仕事

をしてまいりました。うち十年間は、神奈川県茅ヶ崎の松下政経塾敷地内に家族共々住み込み勤務でした。この歳月は、私にとって大きく人生の変わる経験となりました。教える側教えられる側が共にあることは教育の原点です。今でも青年塾における大切な約束の一つは「共にある」ということです。

その住込み勤務の頃、私の隣に伝記作家の小島直記先生に住んでいたいただきました。先生は志には三つの条件があると言われました。

① 人生のテーマを持つ。

死ぬ瞬間まで追い求めたいと思うものが人生のテーマです。仕事のテーマは退職や転勤で消えたり変わったりすれど人生のテーマは変わらない。現役時代、地位を極めようと思ってる人は地位がなくなるとたんに衰える。財を求め人も同様に限界があります。しかし、「道」を極めようとして生きている人は老いて衰えない。人間国宝と言われるような八十、九十の人たちにも見るように、歳をとるほどにこの道を極めたいという思いがさらに成熟してゆく。人生のテーマを持って道を極めようとして生きるとき、人は老いて衰えないのです。

② 生きる原理原則を持つ

自分なりの原理原則、これは譲れない、という背骨を一つ持つことです。人生には唯一絶対に相続がない最高の遺産相続があります。それは「生き様を遺す」ということです。「言い訳をしない」「人の悪口を言わない」…この一点だけでも子孫にとつては何よりの遺産です。その生き様を遺すためには、なにがあってもこれを貫きたいという自分なりの原理原則がなければ遺すことはできません。

私にとつての原理原則とは「己の損得を超える」。人は自分の損得を基準に判断する力を持っています。しかし、己の損得を超えて、もっと大きいものの損得―つまりは皆のために―という思いこそ

が志だと思っています。

③ 言行一致

言っていることとやっていることを一致させること。他人に求める限りは自らやる。その厳しさを持つことが不可欠です。

■ 感謝した分幸せになれる

激動の時代などと言われますが、いま世の中は変化を強調し、それは人の不安を募らせます。私は青年塾でお話しているのは「変わらざるものにしつかり目を向ける」ということ。どの時代も常に先行きは不透明なものです。常に変化に追い立てられる生き方をしていると追い詰められてしまいうでしよう。変化にばかり目を向けるのではなく、変わらざるものに目を向けること。変わらざるものとは何か。それは人間の本質です。目先のことや技術はどんどん変わるでしょうが、どんなに時代が変わろうと、人間の本質は永遠に変わることはありません。「真理は平凡の中にあり」ということは地に足をつけた生き方のことであり、底力を養うこととも言えます。今の世は当たり前を馬鹿にして特別なことをしようと動いている。しかし流行(はやり)はいずれ廃れます。流行を追わず真理を追うことがなにより大切です。

松下幸之助は「素直」という言葉を必ず色紙に書きました。若い頃はこの言葉の意味もよくわかりませんでした。が、今歳を重ねこれは「真理に素直であれ」ということだったかと思ひ至りました。本当に大事な原理原則に素直であることだ。その真理の一つに「人は感謝した分幸せになれる」。自分が不幸だと思っている人は皆感謝の足りない人です。本当のことがわかっていないから幸せになれるはずもうまくいくはずもない。幸せになりたいのなら、まず「感謝の念を深く持て」。人は感謝した分幸せになれる、とはきわめて平凡であり、本質を突いた真理なのです。

(抄録 中川千都子)

《グループ討議》

上甲 晃先生の講義をお聴きした後、塾生が各グループに分かれ講話内容について討議し、グループごとにまとめられた感動語録を発表しました。

【Aグループ】

- ① 人生は、思い以上の結果は出せない。
- ② 凡事徹底

真理は平凡の中にあり

- ③ 生きざまを残す

【Bグループ】

- ① 感謝の念を深く持つ
- ② 変化を強調しすぎている
- ③ 自分の思い以上の結果は出せない

【Cグループ】

- ① 人生のテーマを持つこと
- ② 生きる原理原則を持つ
- ③ 変わらざるものに

しっかりと目を向ける

【Dグループ】

- ① 真理は平凡の中にある
- ② 人生のテーマを持つ
- ③ その氣が無ければ何も始まらない

【Eグループ】

- ① 人間として最後まで必要されて生きることが大事
- ② あいさつは大事
- ③ 変わらざるものに目を向けよ



「読書会」(Aグループ)

- ・指導 中川千都子副代表
- ・テキスト 『ありがとうございます』
- ・進行 北嶋紀子さん

31 自分の苦楽・不幸の根本原因が、自分自身の言葉の使い方・心の状態にあるのだと判れば、すべての問題は解決するのです。

35 「感謝は光」です。世界を明るく照らし出す光明です。暗闇の中では、どんなに素晴らしいものが目の前に有っても、見えないのです。

42 神様がマイナス（例えば病氣・貧乏・苦痛・試練等）を与えてくださったと見ているのは、受ける側の人間の自分勝手な見方なのです。与える側の神様は、常に常に無限の無限のプラスのみを与え続けてくださっているのです。

45 本心の自分の「与えて与えて与え尽くす生き方」というのは、他のすべてを自分自身と観て、一切の責任者・中心者として、不可能に挑戦し、困難に戯れる、苦勞を楽しむ生き方なのです。

46 道具を自在にこなしてこそ、本当の仕事ができるのです。道具を振り回しているようでは、本来の目的を達成することは不可能です。これと同じように本心の自分が、自己表現の道具である肉体と、魂を自在に使いこなしてこそ、神様の御心を、この世に現すという本来の使命を、全うすることができるのです。

「読書会」(Bグループ)

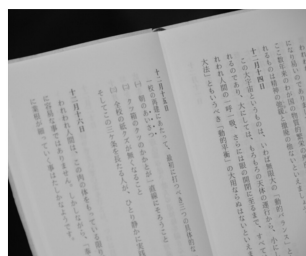
- ・指導 近藤宏枝さん
- ・テキスト 『一語一会』
- ・進行 山路直美さん

十二月五日
一生を真に充実して生きる道は、結局今日という一日を、真に充実して生きる他ないでしょう。実際「一日が一生の縮図」です。

十二月七日
人間というものは情熱無くしては偉大な仕事のできるものではありません。真に力のある生きた思想というものは、偉大なる情熱が、しだいに澄みゆくところに生まれるものであって、情熱を伴わない理性というようなものは、真の理性ではなくて、単にこざかしい理屈にすぎないものです。

十二月十五日
一校の再建にあたって、最初に打つべき三つの具体的な「定石」としては
(1) 朝のあいさつ
(2) クツ箱のクツのかかどが一直線に揃うこと
(3) 全校の紙くずが無くなること
そしてこの三ヶ条を長たる人が、ひとり静かに実践することです。

十二月二十日
真に生き甲斐ある人生の生き方とは、つねに自己に与えられているマイナス面を、プラスに反転させて生きることである。



鍵山秀三郎先生年頭所感

「2016年は日本人が世界の秩序を正す」

十六年目に入った二十一世紀という西暦が、日本人の間にもすっかり定着しました。

前世紀までは、明治・大正・昭和という年号の方が主流であった時代からすると、日本人の意識は、大きく変わりました。

それだけすべてにわたって国際化したと言えましょう。

二十世紀と二十世紀との違いは、世界の出来事が一個人にすぐに影響するようになったことです。

かつてのに日本人は国外のことはもちろん、日本の政治・経済の動きすら一個人に及ぶことは小さかったのです。

現代は世界のどこで起きることも、以前の国内でのこと以上に影響をうけるようになりました。

その為に一人ひとりにかかる心理的・経済的な負担は知らず識らずのうちに重圧となってきました。

日本人は、歴史上で初めての経験を強いられています。

しかし、日本人以外の人たちは、昔からもっと厳しい歴史の中で生きぬいてきています。

昔のヨーロッパ、今の中東やアフリカを見れば、すぐに判ることです。これからの日本人は、新しい経験

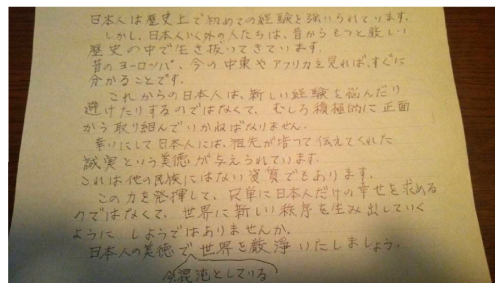
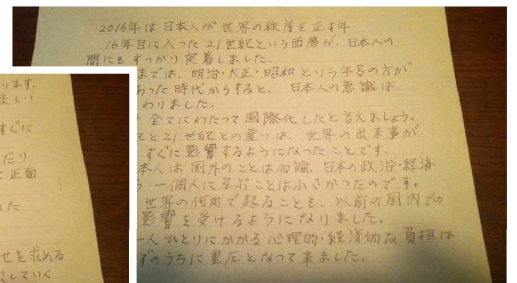
を悩んだり避けたりするのではなくて、むしろ積極的に正面から取り組んでいかねばなりません。

幸いにして日本人には、祖先から培って伝えてくれた誠実という美德が与えられています。

これは他の民族にはない資質であります。

この力を發揮して、ただ単に日本だけの幸せを求めるのではなくて、世界に新しい秩序を生みだしていくようにしようではありませんか。

日本人の美德で、今混沌としている世界を厳淨いたしましょう。



※学塾・中之島の専任講師を務めてくださっています鍵山秀三郎先生「年頭所感」の記事は、鍵山幸一郎様が1月1日フェイスブックにアップロードされた原稿写真を元に入力・掲載させていただきました。



《大悟徹底》(寺田一清名誉顧問のお話を抄録)

「新年を迎えて」

平成23年1月8日
「天分塾ニュース」

わたくし自身を顧みましても、少しゆるみっぱなしで、緊張度をなくしつつあるのではないかと反省を重ねております。日頃、森信三先生の『修身教授録』をテキストとして、各地読書会で学びつつ、猛省をくり返す次第です。「緊揮一番」ふんどしを締め直すにはどうすればいいかと、わたくしなりに反省すれば、第一、初心にかえること。「初心わすれず」だと思います。少し増長慢に陥っているということです。「報恩反始」ということばもございます。初心に還るということは、ご恩に報いる道をわすれているともいえます。

いま一つ、立腰のネジをいま一度締め直すということでしょうか。ネジの緩みは、口の慎みのなさに現れます。慎言慎食といわれますように、ことばの慎み、飲食の慎みに帰着するようです。

言うなれば、ものごとや対人関係において、謙虚さを失いかけていっているといえそうです。いまいちど、隠者・新井奥邃先生の『聖言』をひもといてみることにしました。

★人は謙讓卑下して大謙に由るに非ざれば

善美をその身に体する能はざるなり

善美の国に嚴法あり、謙と云う。

と、仰言っておられます。

噫、この一語をもつて今年一年のお守りとさせていただきますかと思ひまして、新年度のビジネス帳に、筆写致しました。

以上のことは、この誌面に発表すべきことではないのですが自戒を込めて記させていただきました。

《二月 人間学塾・中之島》

■ 第四期

基本カリキュラム

*日時 2月13日(第二土曜)

*場所 午後12時〜受付 開講午後1時〜

大阪大学中之島センター

10F 佐治敏三ホール

*講師 横田南嶺老師

「夢窓国師に学ぶ」

1964年和歌山県新宮市に生まれる。1983年筑波大学に入学。東京都文京区白山道場龍雲院 小池心叟老師について出家得度。2007年筑波大学卒業、京都建仁寺僧堂、円覚寺僧堂にて修行。円覚寺足立大進老師に嗣法。2012年臨済宗円覚寺派管長に就任。『祈りの延命十句観音経』、法話集『いろはにほへど』など著書多

□ 春季宿泊研修

*日時 3月12日〜13日

*場所 京都 仁和寺・御室会館

*講義 第一講 竹村亞希子先生

第二講 佐藤敏郎先生

薩摩琵琶奏者 関川鶴祐師

語りべ 木下越子さん

《郊外学習概要!!》(予定)

◆ 日程 平成28年4月23日(土)

◆ 行程 往復大型バス使用(乗車定員45名)

和歌山県串本町・広川町

↓ トルコ記念館

エルトゥールル号海難事故慰霊碑

↓ 稲村の火の館

《新規入塾生紹介》

後藤隼人さん

TEL 572-0839 寝屋川市早池町32-38-105

TEL 072-2827-3135

紹介者 杉本千鶴さん

《淀川掃除に学ぶ会》案内

世話人 志村隆夫

次回のゴミ拾い実施日は、

1月10日(第二日曜)

集合時刻は、午前8時30分開始です。

詳細は世話人までお問合せください。

以降は、毎月第一日曜日です。

ただし開始時刻は、季節により変更しています。

問合せ 〇九〇一八八四一七六五(小西)

〇九〇一七五五五八七七七(志村)

一年を三日で暮らす

いい男!!

今日から宵えびです。

一年の福を授かつて、

お帰りください。



賀正 申

人間学塾・中之島

先哲の教えに学び、実践に努めます

▼ 第四期開塾中 ― 中途入塾歓迎します

◆ 登壇予定講師 ◆ 鍵山秀三郎氏 横田南嶺老師
竹村亞希子氏 佐藤敏郎氏
今野華都子氏 池川 明氏
柴田秋雄氏 石平 氏

会場 大阪大学中之島センター 大阪市北区中之島 4-3-53

事務局 〒648-0094 和歌山県橋本市三石台4-1-15
TEL 〇七三六-三八二六六九 宮本

人間学塾・中之島 検索

みやざき中央新聞1月1日号に、年賀広告掲載しました。中途入塾も大歓迎いたしていますので、知人・友人の方々をご紹介ください。